



発行日：平成 29 年 5 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆山村再生担い手事例集交流会 2017 を開催しました！

矢作川流域では、水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会山部会は、矢作川流域で農業、林業、林産業、定住支援などの中山間地振興に携わる団体・個人の活動情報を共有し、生産者と消費者、農村と都市の住民、関連する団体・個人同士のネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」Ⅰ～Ⅲを、2013（平成 25）～2015（平成 27）年度にかけて作成しました。この事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして、この交流会を開催しました。



日時：H29 年 4 月 15 日（土） 14:00～18:00
場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
参加人数：29 名（事務局を含む）

◆交流会の活動報告と活動紹介について

1. 活動報告



■根羽村森林組合

今村豊さん（参事）

上下流域連携ということで、特に流域への木づかい推進に力を入れています。例えば、根羽スギを活用した簡易セルフビルド「3坪の家」、家族風呂などは、市民に人気が高いことがわかりました。また、「動く木のおもちゃ」などのどこでもシリーズは、プレイスメイキング（居心地のいい木の空間づくり）としての効果が認められ、豊田市や安城市などで事業展開を行っています。

今後は、日本全国や海外にも流域の木づかいを発信するとともに、矢作川の流域木材を使用した「流域ものさし」を市民に広げ、流域一体化につなげていきたいと考えています。

■奥矢作森林塾

大島光利さん（元代表）

我々の活動の原点は平成12年9月（東海豪雨・恵南豪雨）に矢作ダムに流れ込んだ流木にあります。その後、地域振興、森林管理、施設管理を柱とした奥矢作森林塾を設立しました。団体では日本の炭窯を作り、ダムに流れ込んだ流木の消費に努めています。また、適切な山の管理のためには、人口減少対策が重要であると考え、古民家のリフォーム塾を立ち上げました。これまでの8年間に国内や海外から24世帯56名が串原に移住し、そのうち13名が山林の仕事に携わっています。

■とよた都市農山村交流ネットワーク 山本薫久さん（代表）

活動の目的は、都市と農山村が交流する場をつくることによって、都市部の人たちに農山村の魅力を伝えるとともに、農山村を活性化することです。特に都市農山村交流事業の一つである「セカンドスクール事業」は、2008年から続く活動の柱であります。セカンドスクールとは、豊田市内の希望する小学校が行事として、2泊3日の農山村体験をするというもので、これまでに400人弱の子どもたちが豊田の農山村で自然体験（農業体験、山里の料理、食器の手作りなど）をしました。子どもだけでなく、保護者からも好評を得ています。

本団体は今後「おいでん・さんそんセンター」に統合されますが、セカンドスクール部会として継承することになっています。



■豊森なりわい塾

立松昌朗さん（卒業生）

豊森なりわい塾が面白いのは、毎年20~30人が受講しますが、自分のやりたいことを学んで、いろいろな仲間やフィールドをみつけて、あらゆる方向に巣立っていく形式をとることです。私も豊森なりわい塾の2期生として、2013年に卒業しました。現在「A trip to lwamura」と「いのちのめぐる家づくり」という2つの活動を立ち上げ、農山村と都市の人々の交流を図っています。

「A trip to lwamura」は、都市の若者や外国人を対象に、棚田（坂折棚田）での農業体験、宿泊を行うものです。外国人枠はすぐに定員に達する反面、日本の若者はなかなか集まりません。

「いのちのめぐる家づくり」は、茅の吹き替えなど古い家の手入れを通して、日本の伝統や美しさを都市に発信したいです。

■株式会社 M-easy

戸田友介さん（代表）

2009年より始まった「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」がきっかけで、10名の若者が豊田市旭地区につながりを持つようになりました。その後、紆余曲折を経て、7人が独立して移住、現在は福蔵寺を拠点に農業、林業、ご縁市、地域スモールビジネス研究会、雑誌の発行、合唱団の運営、消防団、新聞配達など多岐にわたる活動を行っています。

思えば、これまで順風満帆ということはありませんでした。たくさんの壁の中で、「あんたらが居てくれるだけでうれしい」という地域の方の一言が大きな支えになりました。これからも社名である Making the earth alive synergy；自然の恵みと脅威に寄り添いながら、時代の荒波にもまれながら、未来を育ててきた先人たちへ思いを馳せるといふ精神のもと、活動を続けたいと思います。

■農業生産法人 みどりの里

野中慎吾さん（代表）

2008年より豊田市のスーパーやまのぶの自社農園をしております。団体のモットーは無肥料、無農薬という自然栽培ですべての農産物を栽培しており、現在8haの農地に米、野菜、イチゴ、ブルーベリーなどを作っています。

私は以前、無農薬というのは量が取れないと勝手に思い込んでいました。しかし、自然栽培と農薬・肥料使用の比較を行うと、徐々に自然栽培が追い付いて、最後は圧勝しました。また、自然栽培だと虫や鳥による食害があまりないのです。例えば、ヨトウムシなどは、あまり栄養のない葉を食べても大きくなれず、病気にかかって減少します。自然のルールは、うまくできているものです。

現在では、一年を通して無農薬のお米を販売できるようになっています。また、自然農法を障がい者と一緒に取り組む『農福連携』、green mamanさん（豊田市在住の4人の母親が集まって作ったグループ）との連携を通し、やさしい形に社会を変えていきたいですね。

■額田木の駅プロジェクト実行委員会 唐澤晋平さん（事務局長）

岡崎市全体の人口は徐々に増加する中で、額田地域は減少の一途をたどっています。昔から林業の町であり、昭和の中ごろまでは非常に栄えていました。ところが、林業の低迷により、間伐の遅れが目立つ状況でした。そんな中、額田林業クラブ、森林組合、町の商工会の人たちと話し合いを重ねて、平成27年に「額田木の駅プロジェクト」がスタートし、現在3年目に入っています。出荷量は1年目が830t、2年目が1,300t、登録者100名、50店舗で森の健康券（地域通貨）が使えるようになっていきます。2年間で約2,000tの間伐材を出荷し、地域通貨としては1,100万円くらい発券しました。最近の動きとして、林業クラブに入っていない人たちも少しずつ参加するようになってきて、いろいろな山主に目を向けてもらいたいという当初の目的が達成できてきたと実感しています。3月には、木の駅サミットを額田で行い、国内外から木の駅の実践の情報交換を行うことができました。





■天下杉

石原朋子さん ほか

約25年前、根羽村商工会の都市の交流事業の中で、根羽村大豆から「ふれ愛豆腐」が生まれ、お年寄りに配ったところ、お年寄りから「母親の手作りの味がした」「懐かしい子どもの頃の味がした」といった感謝が寄せられ、何か他に喜んでいただけることがないかと思いついたのが、演芸による慰問活動（ボランティア）でありました。主な活動対象は、老人福祉施設や身障者支援施設であり、活動内容は歌、舞踊、寸劇（シンクロ）など多岐に及びます。また、活動場所は飯田市をはじめとする南信地域が主ですが、岐阜県や愛知県での講演も行っています。

私たちは、お年寄りの中では売れっ子さんですよ！ただ、若い方からのオファーは何故かありません。山村再生担い手づくり事例集の作成は素晴らしい活動で、そのお陰で、私たちは皆さんと出会うことができました。年齢が年齢だけに、来年お会いできるかは分かりませんが、生きている限り、この活動を続けていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



【交流会を通じて感じた事】

◆よかったと思うこと

- 発表されたすべてのグループからパワーをいただきました。
- 直に発表を聞くと、紙面より伝わるころが大きいです。M-easyの戸田さんのお話は、実によく分かりました。「自分が何をしたいのか。」を基本として歩むこと。覚悟すると開かれていくとか。革命とは暮らしが変化することなのだ気づかされます。みどりの里の自然栽培がおもしろい！！すごい！！農福連携には希望があります。
- 顔を見ながら写真を見ながら話を聞くと、名言が心まで届きます。
- 発表だとみなさんの活動がよくわかってすごく良かったです。
- 大変すばらしい。異なった分野の話はなかなか聞けません。そんなところ今回は、とても面白くまたとても参考になりました！また、どんどんやりましょう！！
- 根羽村森林組合の木を使った様々な製品は多くのものを手がけておりそれを実製品にして世に出しておられることは素晴らしいと思います。みどりの里の取り組みはいいですね。この農法が広がって行く事を願っています。

◆改善してほしいこと

- もっと一人一人の話をお聞きしたかったです。質疑の時間が少しでもあればもっと盛り上がったのでは？
- 参加者が少ないです。特に宿泊者。できればいろいろな分野の取材団体が来て交流してほしいです。
- 会場を毎年変えながら、若い人、女性なども参加しやすい環境をつくる工夫が必要です。

◆今後に向けた進め方の提案

- 矢作川流域圏懇談会は発足から7年経過して山部会を始め随分充実してきたと感じます。（自画自賛？）全国に先駆けて始まった懇談会ですから、今後は広く全国的な多くの人々に広報できることを考えていただきたいです。
- 山本さんの報告にあったように、この地域の森の動き、里の動きを経過を追って体系的にまとめた冊子もあるといいかも知れません。1年に1度でも交流会があれば、つながるポイントも見い出せる可能性があります。
- 毎年やりましょう。連携して祭りも計画しましょう。

◆質問など

- 田んぼのオーナー制度について、田んぼは水管理が必須ですが、誰がされているのでしょうか？
- 茅葺きのカヤはどこで調達されますか？

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 指導官 小林、係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

